

溶損試験機



<特徴>

実鑄造では多くの時間と費用を要する溶損に対する優劣評価を実際の溶湯を使って短期間で評価します。

<評価方法>

- ①専用形状のピンを用いて、実際の溶湯に浸漬させ、ピンを高速回転^(※)させながら一定時間溶湯内にて浸漬・回転させます。
- ②試験完了後にアルミを除去し、試験前後の重量変化で評価します。

(※)回転数設定範囲:0~2000rpm

<表面処理評価事例>

比較品	実験後TP
SKD61	
窒化処理	
DLC	

